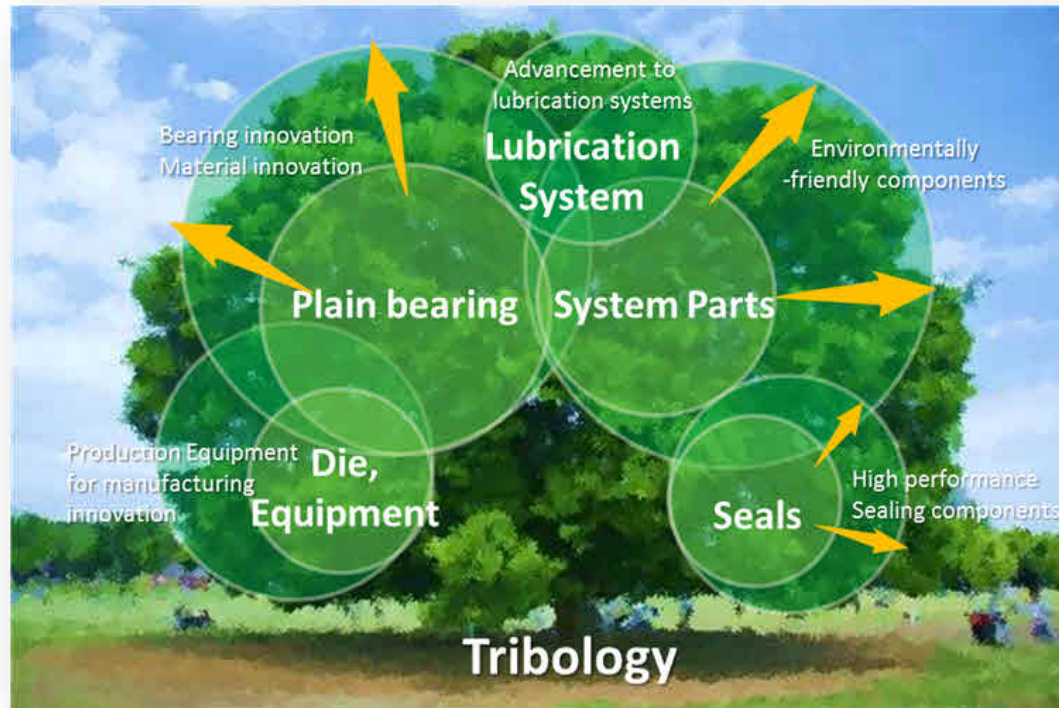


2020年3月期 第2四半期 決算説明会



2019年11月25日

将来見通しに関する注意事項

このプレゼンテーション資料に記載されている当社業績見通しは、現時点で把握している情報に基づき、当社が判断したものです。実際の業績は、今後の経済動向、市場の需要、為替レートの変動、税制や諸制度など、様々なリスクや不確定要素に左右されます。従いまして、実際の当社業績は見通しと異なる結果になる場合があることを、あらかじめご了承ください。

投資に関する最終決定は、上記の点を踏まえ、投資家の皆様ご自身の判断で行われるようお願いいたします。

当プレゼンテーション資料に掲載された情報に全面的に依拠して投資判断を下されることはお控えくださいますようお願いいたします。

1. 不適切会計事案について

2. 2020年3月期 第2四半期実績
および通期業績予測

3. 大変革期での当社の戦略について

不適切会計事案について

この度は当連結会計年度に判明しました北米子会社の不適切な会計処理に伴う第1四半期決算発表の遅延に関し、株主・投資家の皆様をはじめ、市場関係者及び取引先の皆様には多大なるご迷惑とご心配をおかけいたしましたことを心よりお詫び申し上げます。

二度とこのような事態を起こさないように、今後は、当社及びグループ会社のコンプライアンス強化と再発防止策を徹底し、皆様のご期待に沿えるよう努めて参ります。

目次

1. 不適切会計事案について
2. 2020年3月期 第2四半期実績
および通期業績予測
3. 大変革期での当社の戦略について

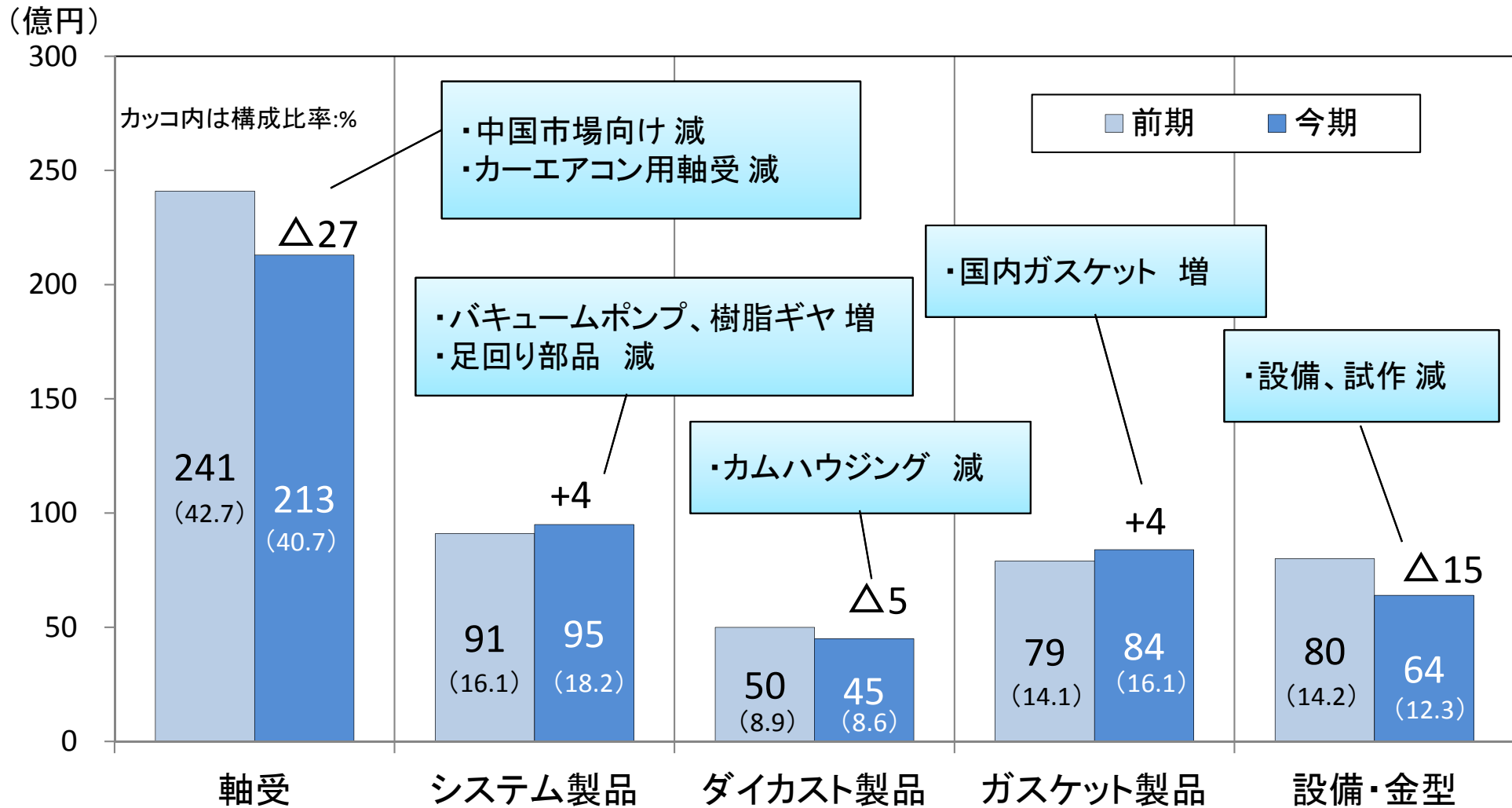
2020年3月期 第2四半期 決算の概況 <連結>

(単位:億円 以下切り捨て)

	前年同期実績比				公表値比			これまでの 第2四半期 最高業績
	'20/3期 上期実績	'19/3期 上期実績	増減	増減率	'20/3期 上期公表値	増減	増減率	
売上高	523	564	△40	△7.2%	540	△16	△3.0%	571 ('18/3期)
営業利益	16	22	△6	△27.6%	16	0	0.1%	36 ('18/3期)
経常利益	14	21	△7	△34.4%	16	△1	△11.9%	37 ('18/3期)
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	9	13	△4	△30.8%	10	△0	△8.1%	26 ('18/3期)
為替レート	109円/\$ 121円/€	110円/\$ 130円/€	—	—	110円/\$ 125円/€	—	—	

大豊岐阜合併による償却方法変更により
約4億円の減益(今期限定)

2020年3月期 第2四半期 製品別売上高 <連結>

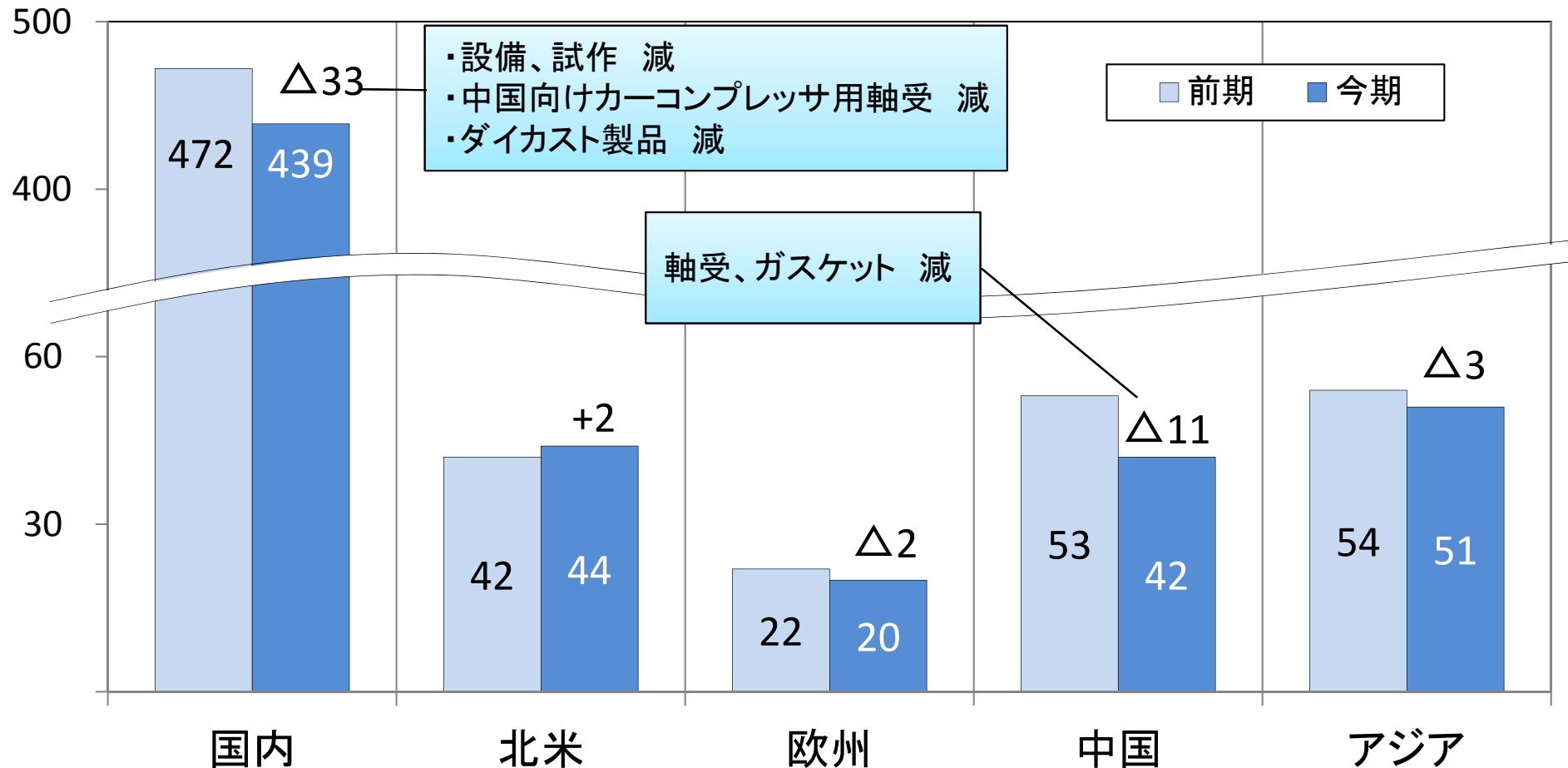


中国市場の減速により、軸受製品が減

モデルチェンジ需要減により設備が減、試作が受注減

2020年3月期 第2四半期地域別売上高 <連結消去前>

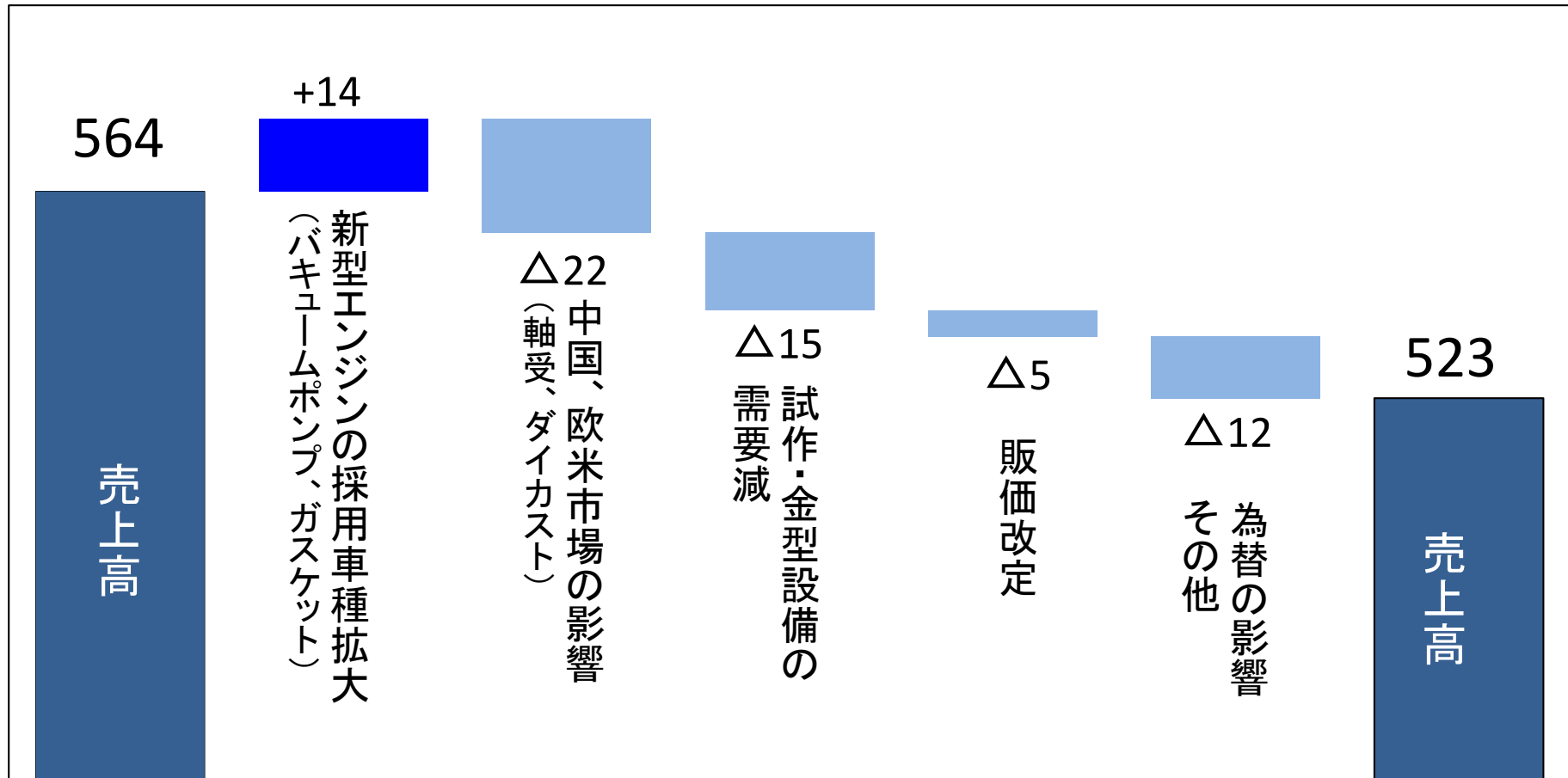
(億円)



中国市場減速により国内、中国が売上減
その他の地域はおおよそ前年並み

売上増減の主な要因(前期比) <連結>

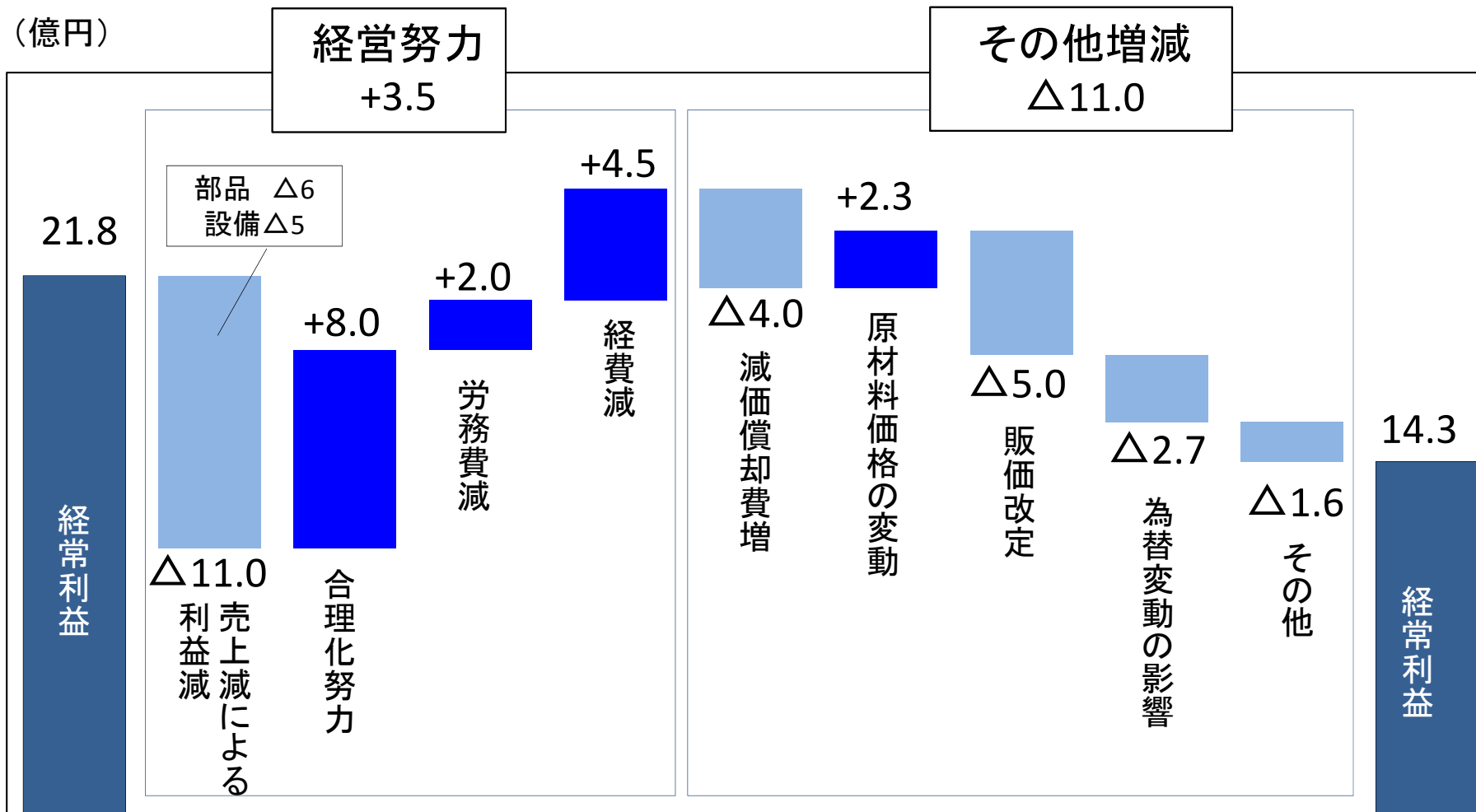
(億円)



'19/3期2Q 40億円 減収 '20/3期2Q

新型エンジン拡大により14億円増収したが、
中国、欧米市場の低迷による軸受等の減、およびモデルチェンジが
一段落したことによる設備事業の減により40億円減収

経常利益増減要因(前期比) <連結>



'19/3期2Q $\xrightarrow{7.5\text{億円 減益}}$ '20/3期2Q

合理化推進、労務費および経費低減により3.5億円増益したが、大豊岐阜合併による減価償却費 4億円の増と、販価改定等による利益減を吸収しきれず7.5億円の減益

2020年3月期 通期業績予測 <連結>

(単位:億円 以下切り捨て)

	通期予想 前年同期比			
	'20/3期 通期予測	'19/3期 実績	増減	増減率
売上高	1,100	1,134	△34	△3.0%
営業利益	33	48	△15	△31.5%
経常利益	32	47	△15	△32.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	22	26	△4	△28.7%
為替レート※	110円/\$ 125円/€	110円/\$ 128円/€	—	—

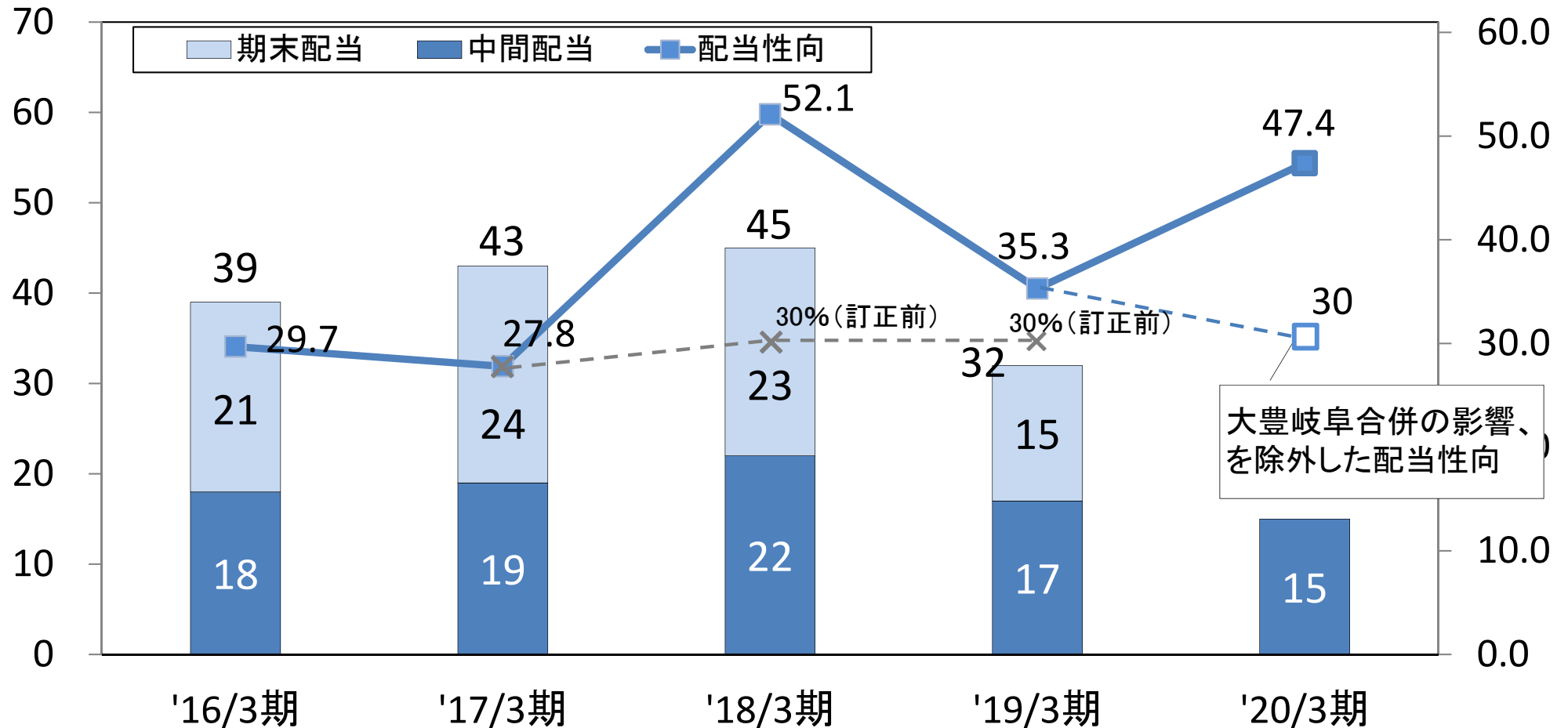
当初の予測値から変更無し
 下期も厳しい状況が続くと予測するものの、
 固定費削減を中心に収益体質の強化を推し進める

株主還元

(円/株)

1株当たり配当の推移

(%)



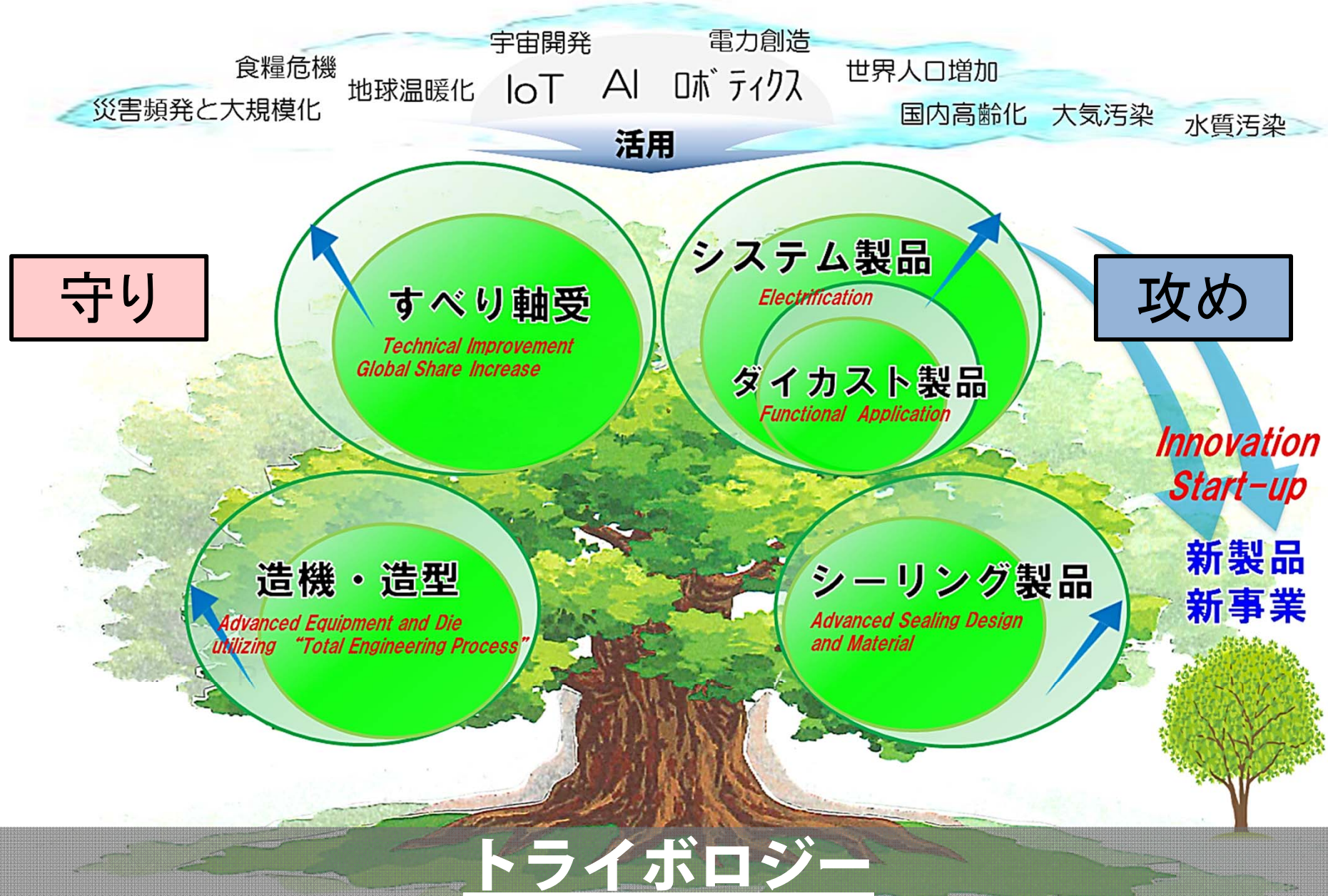
配当性向30%を基準に株主様へ還元する

中間配当15円は配当性向47.4%となるが、大豊岐阜合併の影響を除外すると、従来どおり30%レベル

目次

1. 不適切会計事案について
2. 2020年3月期 第2四半期実績
および通期業績予測
3. 大変革期での当社の戦略について

「守り」で「攻め」で既存製品拡大と新領域へチャレンジ



「守り」と「攻め」で既存製品拡大と新領域へチャレンジ

守り

既存製品/仕事のやり方を変える

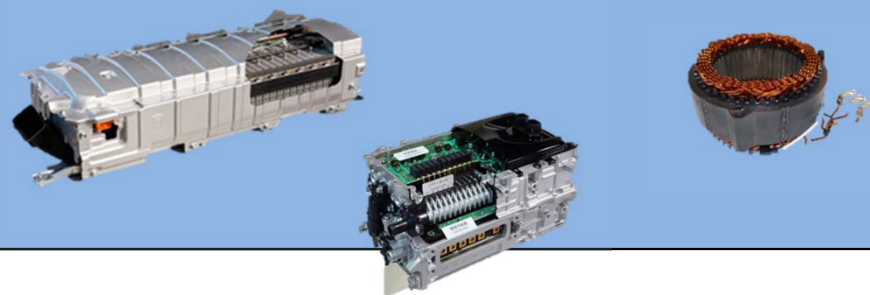
- ・最適仕様を提案する
エンジニアリングサポート
- ・中国市場への軸受拡大
- ・システム製品の他社展開



攻め

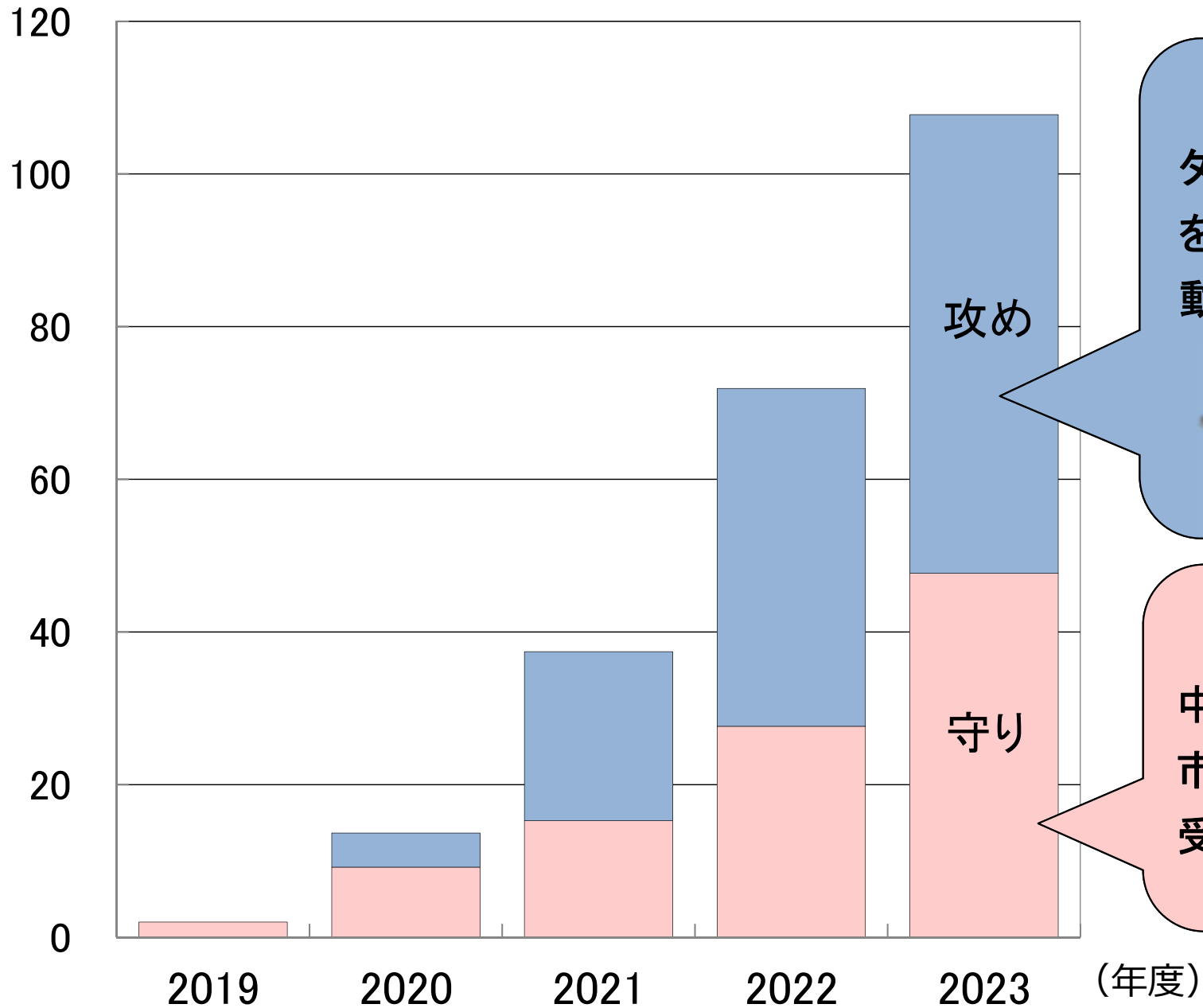
新領域/新製品へのチャレンジ

- ・コア・コンピタンスによる
電動化対応
- ・将来の高性能エンジン



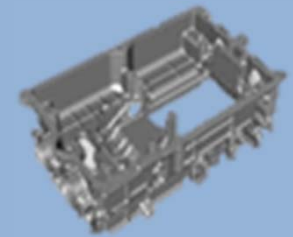
「守り」と「攻め」の拡販製品 売上高予測

(億円)



攻め

ダイカスト製品
を皮切りに、電
動化製品を提案



攻め

守り

中国市場、欧米
市場へ拡販、軸
受をシェアアップ

守り

「守り」と「攻め」で既存製品拡大と新領域へチャレンジ

守り

既存製品/仕事のやり方を変える

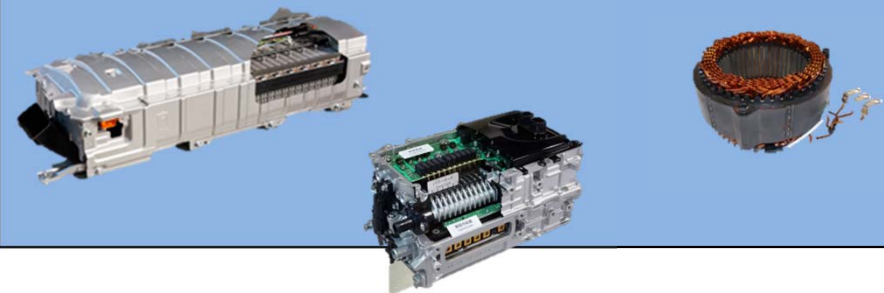
- ・最適仕様を提案する
エンジニアリングサポート
- ・中国市場への軸受拡大
- ・システム製品の他社展開



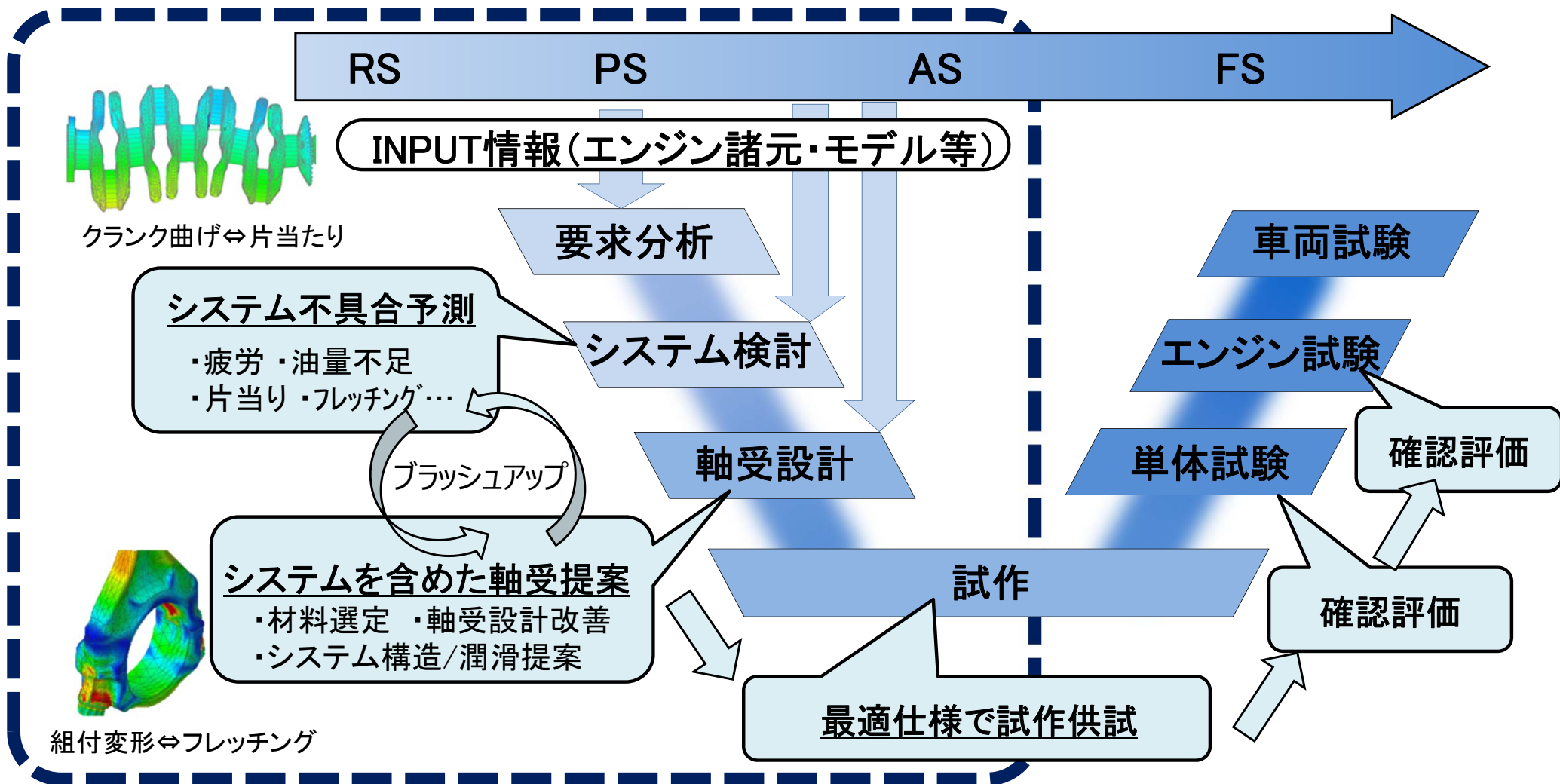
攻め

新領域/新製品へのチャレンジ

- ・コア・コンピタンスによる
電動化対応
- ・将来の高性能エンジン



最適仕様を提案するエンジニアリングサポート



- ・ MBD (モデルベース開発) にて、お客様の開発品質向上に貢献
- ・ 開発の不具合を撲滅し、開発リソースを低減

「守り」と「攻め」で既存製品拡大と新領域へチャレンジ

守り

既存製品/仕事のやり方を変える

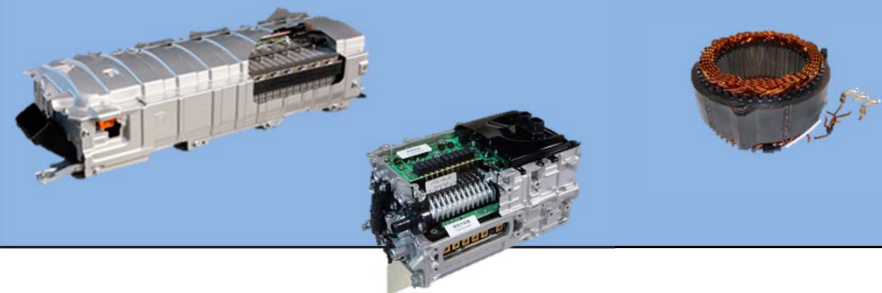
- ・最適仕様を提案する
エンジニアリングサポート
- ・中国市場への軸受拡大
- ・システム製品の他社展開



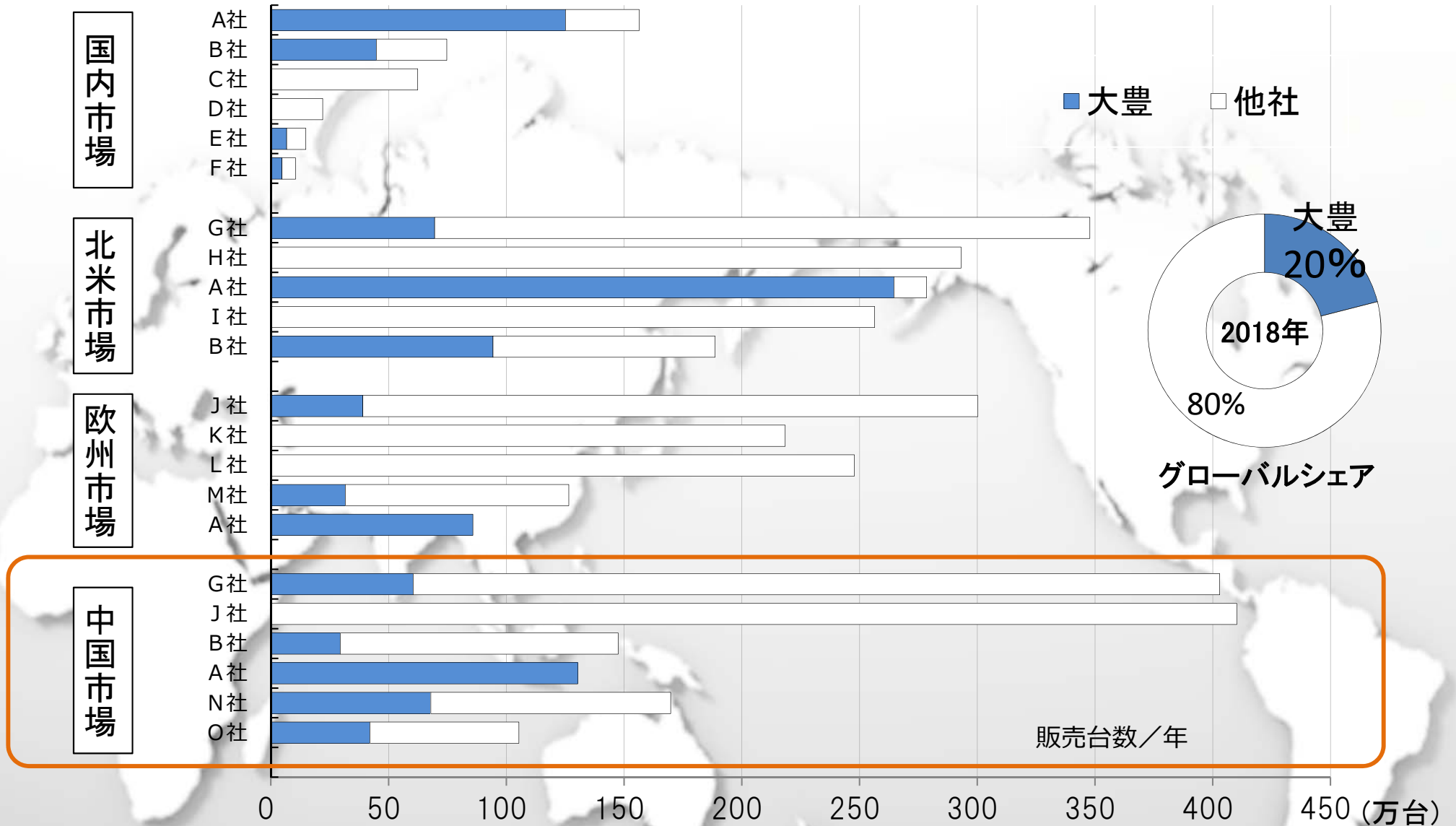
攻め

新領域/新製品へのチャレンジ

- ・コア・コンピタンスによる
電動化対応
- ・将来の高性能エンジン



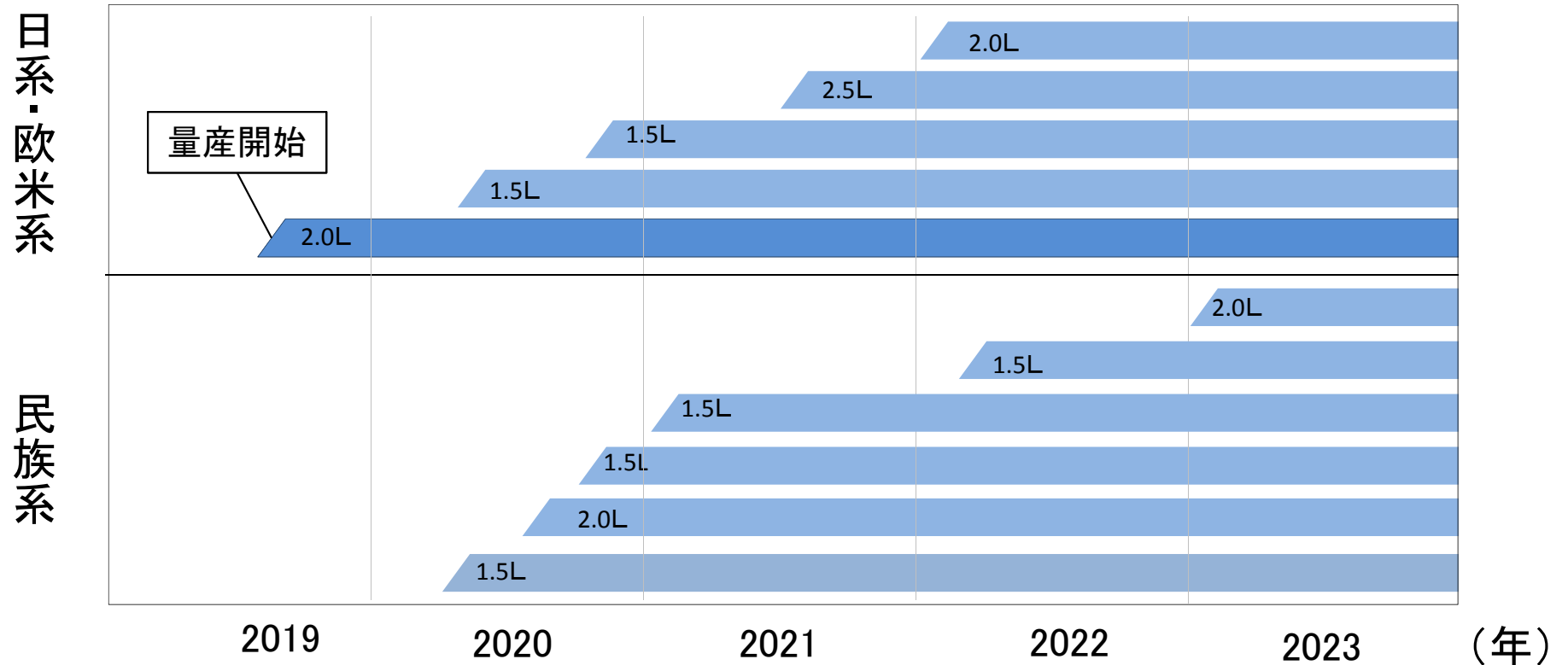
当社のグローバルな位置付け =エンジン用軸受シェア=



日系メーカーだけでなく、中国系や欧米系への営業活動を展開
 ⇒ 中国市場では信頼性・コストで提案

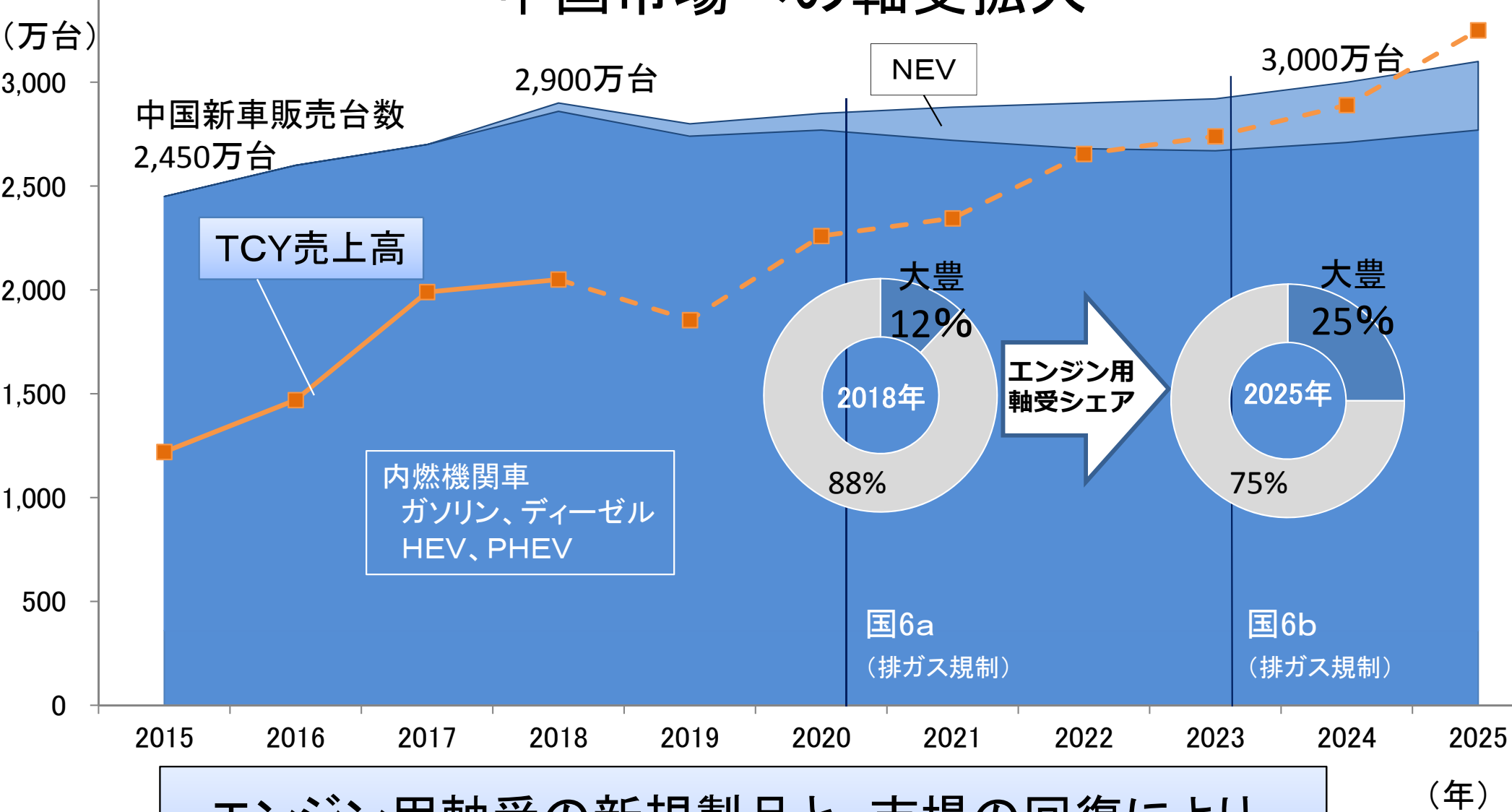
中国市場への軸受拡大

エンジン用軸受の新規立上げ計画(TCY)



'20年以降、日系・欧米系メーカーをはじめ民族系メーカーに向けてエンジン用軸受の受注増が見込まれる

中国市場への軸受拡大



エンジン用軸受の新規製品と、市場の回復により、2020年以降中国向け売上高の増加を見込む

「守り」と「攻め」で既存製品拡大と新領域へチャレンジ

守り

既存製品/仕事のやり方を変える

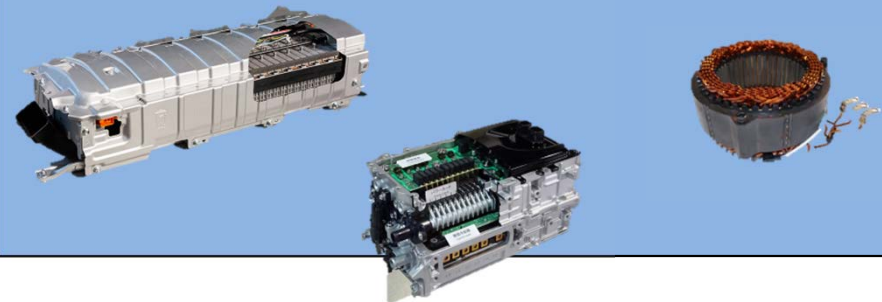
- ・最適仕様を提案する
エンジニアリングサポート
- ・中国市場への軸受拡大
- ・システム製品の他社展開



攻め

新領域/新製品へのチャレンジ

- ・コア・コンピタンスによる
電動化対応
- ・将来の高性能エンジン



コア・コンピタンスによる電動化対応

		バッテリー	コンバータ インバータ	モーター	燃料電池
大豊グループ コア製品	軸受	電極、ケーシング ・銅粉末焼結技術 ・圧接・めっき技術	圧接・めっき技術	樹脂コーティング技術 しゅう動材料技術	樹脂コーティング技術 しゅう動材料技術
	システム	熱マネジメント(冷却) ・熱解析技術 ・空冷用電動ファン	熱マネジメント(冷却) ・薄肉空冷フィン ・高熱伝導/放熱材料	熱マネジメント(冷却) ・油冷システム最適化	流体制御技術 異材接合 薄肉、軽量化
	ダイカスト				
	樹脂成形	樹脂インサート技術	電磁波遮蔽樹脂 高減衰樹脂(NV対策)	抄造技術 樹脂インサート技術 高減衰樹脂(NV対策)	樹脂インサート技術 強度計算解析技術
	シール	シール技術	シール技術	シール技術	セパレータ メタルシール技術

新規事業を加速するため「G-TSR推進室」を新設

攻め

新領域/新製品へのチャレンジ

従来の領域



コア・コンピタンスによる電動化対応

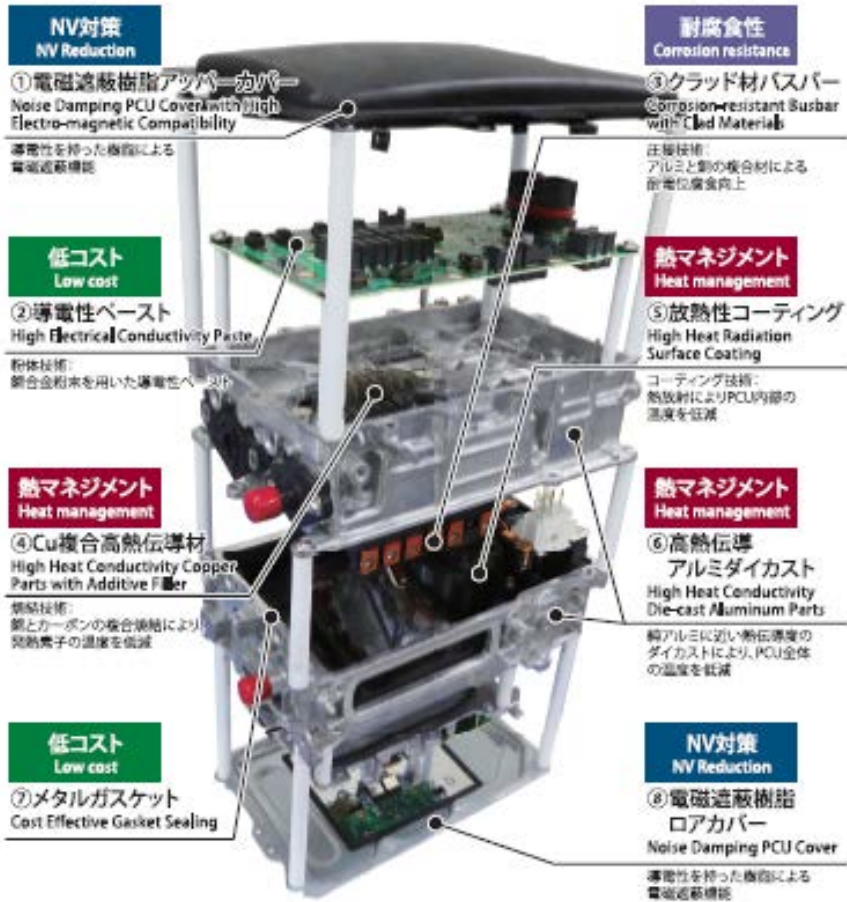
PCU適用アイテム【東京モーターショー2019で展示】

抄造

パウダー

焼結

ガスケット



圧接

コーティング

アルミダイカスト

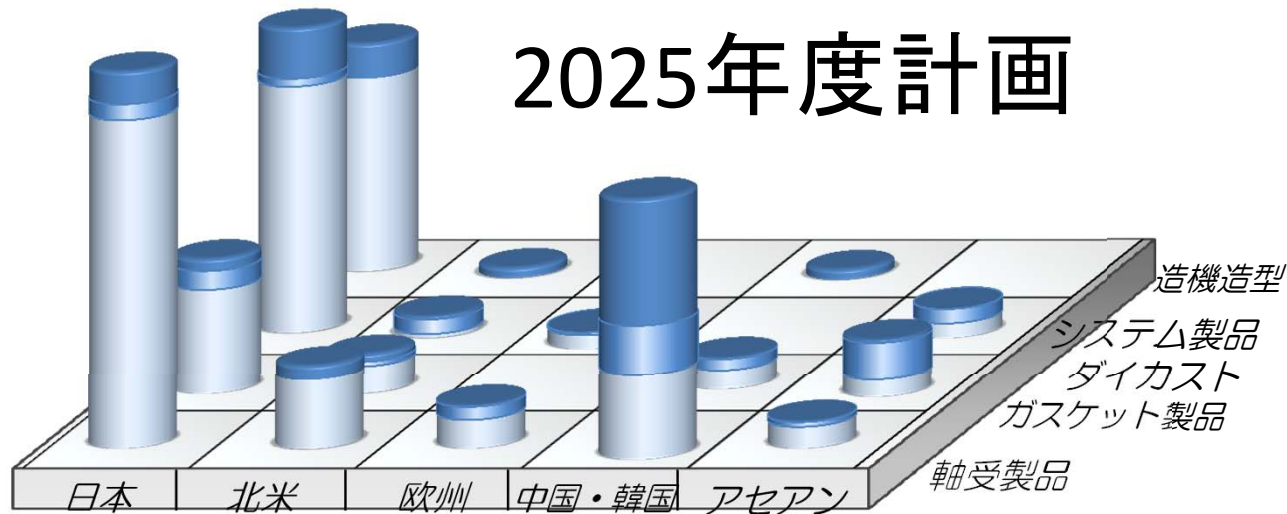
抄造

※PCU＝パワーコントロールユニット

PCUの熱マネジメント、NV(騒音振動)対策等、大豊グループの保有技術でお客様へ提案

「守り」と「攻め」の計画(～2025年)

2025年度計画

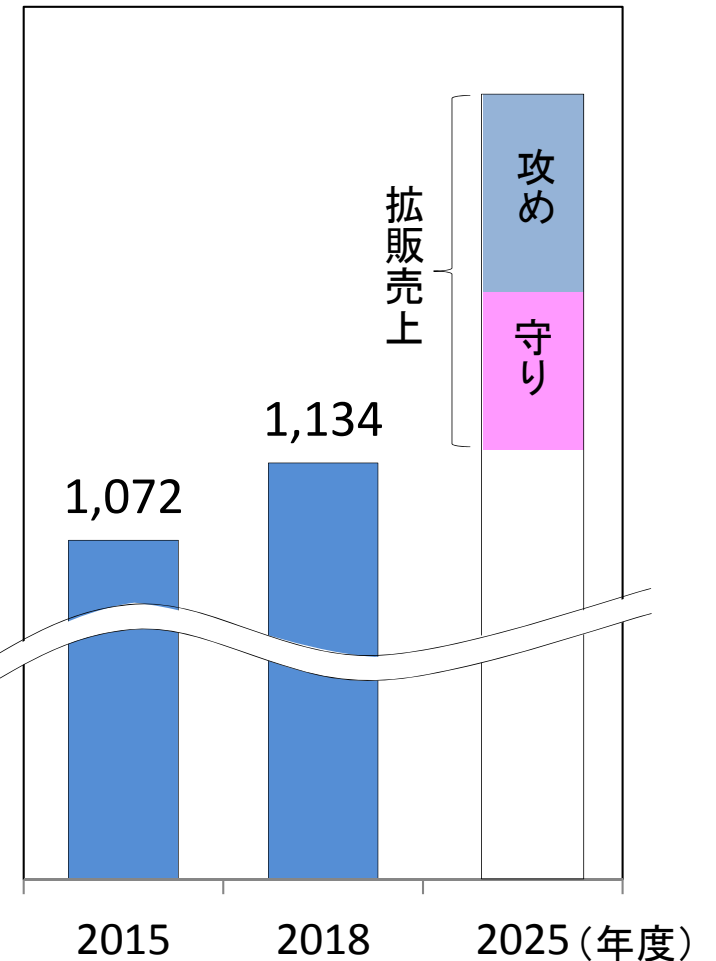


2018年度



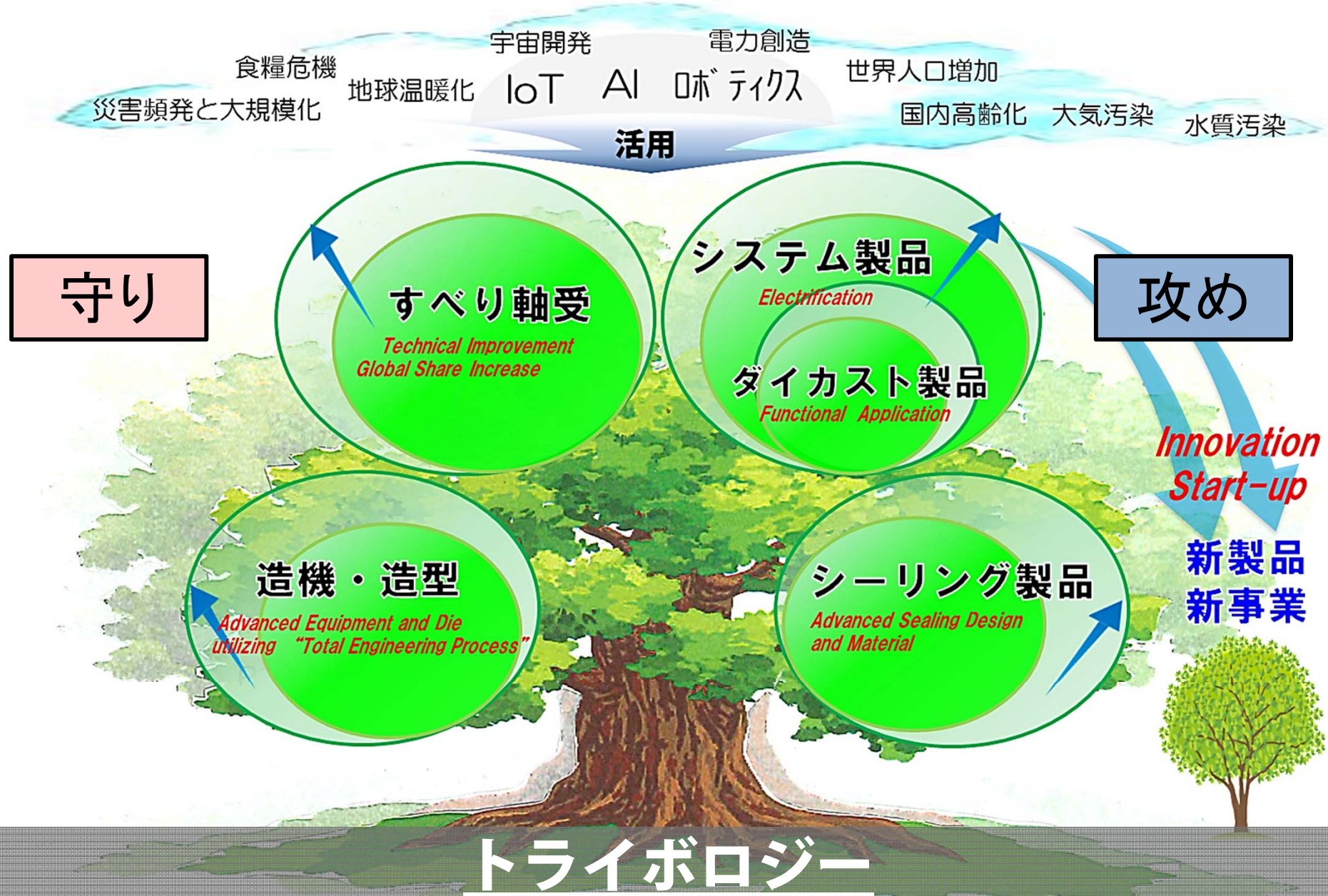
連結売上高計画

(億円)



「守り」と「攻め」で グローバル市場への拡販と
新製品・新事業を着実に推進していく

「守り」で「攻め」で既存製品拡大と新領域へチャレンジ



守り

すべり軸受

*Technical Improvement
Global Share Increase*

システム製品

Electrification

ダイカスト製品

Functional Application

造機・造型

*Advanced Equipment and Die
utilizing "Total Engineering Process"*

シーリング製品

*Advanced Sealing Design
and Material*

攻め

*Innovation
Start-up*

新製品
新事業

トライボロジー

ご清聴ありがとうございました。